山崎能

令和８年

11月8日日

14:00～16:00

山崎八幡神社能舞台

（雨天：山崎文化会館ホール）



主　催　プラチナタウンプロジェクト
宍粟能楽文化振興会

協　力　宍粟市謡曲同好会
山崎集杉会・波賀翠謡会
梅谷錬成会・山崎篠謡会

文化庁

令和８年度文化庁伝統文化親子教室事業（地域展開型）

【能楽の魅力と宍粟の伝統文化】

公演終了後より、ワークショップ開催　“能面・能楽の魅力の体験”　先着 20 名

主　催　一般社団法人松の会

後　援　兵庫県・宍粟市・宍粟市教育委員会・宍粟市文化協会・宍粟市山崎文化協会・
公益財団法人しそう森林王国観光協会・公益財団宍粟市文化振興財団・宍粟市商工会・
姫路ケーブルテレビ・神戸新聞社・株式会社サンテレビジョン・株式会社姫路シティ FM21　他

演目解説

能

羽衣

檜書店「能サポ」より抜粋

あらすじ

駿河国（静岡県）美保の松原。
漁師白龍が釣りに来て、美しい衣が松の枝にかかっているのを見つける。家宝に持ち帰ろうとすると、それを返してと女性が声をかける。その女性こそ天人であり、衣は飛翔に使う天の羽衣である。と聞き、よけいに欲しくなる白龍。天に帰れないと嘆き悲しむので、漁師は天人の舞を見せてくれれば衣を返すと言う。
天人は喜びの中、天の羽衣を着て、月世界の生活を語り、後世に駿河舞として伝えられる舞を見せ、空へ帰って行く。
江戸期、数多くの舞踊曲の原点となる。言葉のわからぬ海外でも、能の代表曲として上演される、国際的かつ宇宙的広がりをイメージさせる作品。

見どころ

前半の「いや疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」という天人の言葉は、月の世界の住人である天人の清らかさ、気高さを際立たせるものです。
後半は、天人の舞が見どころ。
天人が国土を祝福し、宝を降らすというめでたい結末で、全体的に明るい趣のある祝言性の強い作品です。結末では謡の文句に合わせて天人が、夕映えの遠くの山を眺めるさま。宝を降らす様子、浦風に羽衣をたなびかせるさまなどを舞います。
能〈羽衣〉の素材は、『風土記』『丹後国逸文』に見えるような日本各地に残る羽衣伝説です。羽衣伝説は白鳥処女説話としても知られ、世界中で語り継がれています。〈羽衣〉は日本における羽衣伝説の集大成といえます。

主な出演者紹介

うえだ たかひろ
上田　貴弘

昭和三十二年生まれ

重要無形文化財保持者（総合認定）
神戸観世会　理事長
一般社団法人日本能楽会所属
上田観正会能楽堂　代表

まつき ちとし
松木　千俊

昭和三十七年生まれ

重要無形文化財保持者（総合認定）
一般社団法人松の会代表理事
公益社団法人能楽協会所属
一般社団法人日本能楽会所属
一般社団法人観世会理事
長野県坂城町特命大使

すぎうら とよひこ
杉浦 豊彦

昭和三十七年生まれ

重要無形文化財保持者（総合認定）
公益社団法人京都観世会理事
公益社団法人能楽協会京都支部常議員
一般社団法人日本能楽会所属
一般社団法人京都能楽会常務理事

令和八年十一月八日（日）　午後二時 開演（午後一時 開場）
於　山崎八幡神社　能舞台

山崎能

仕舞

高砂　上田 貴弘
屋島　松木 千俊

ご挨拶

山崎能実行委員会　会長　長田 博
宍粟市長　福元 晶三

能奉行舞台改め

山崎能実行委員会副会長　三谷 恭三

能

羽衣
天人　杉浦 豊彦
和合之舞　白龍　原 大
大鼓　渡部 諭　太鼓　上田 悟
小鼓　上田 敦史　笛　鈴木 麻里
後見　松井 美樹　吉井 基晴
地謡　吉井 晟朝　松野 浩行　松木 崇俊　上田 貴弘　佐川 勝貴　松木 千俊

附祝言

地謡　松木 崇俊　松野 浩行　吉井 基晴　佐川 勝貴

終了予定　午後四時

能とは



能は、謡と囃子と舞で構成された、650 年以上の歴史を持つ日本独自の舞台芸術です。
歌と踊りをともなうオペラやミュージカルのように、物語が進行していきます。
主人公の多くが、幽霊や神、鬼といった現実世界に現れない存在ですが、
生きていた頃の苦難や、人とのかかわりを物語り、人間の情念や本質をするどく描き出しています。
もとは「猿楽」や「猿楽の能」と呼ばれていましたが、室町時代の書物に「能」と称す記述が残っています。
「能」という語には技芸の意味があり、技芸を備えた者が演じる歌舞主体の劇を指しています。
明治時代以降は、能と狂言をあわせて「能楽」と呼ぶようになりました。
能の舞台は、登場人物・地謡・囃子方によって極限まで緊張が集約され、洗練された動きには、
さまざまな人間の思いが込められます。
無表情に見える能面は、いざ舞台上で使われると無限の表情を表し、幻想の舞台を繰り広げます。
心を研ぎ澄ませ、観る人の心に響く能の不思議な世界を是非体感してみてください。

仕舞とは



能一曲のなかの特定の箇所を舞います。多くの型を駆使し、辺りの情景や自分の心情を表す部分を取り出したものです。
能の装束や面はつけず、紋付・袴の略式の出で立ちで、主に扇を持って舞います。
この扇は、能で使用する中啓という扇ではなく、鎮扇を使います。

ご協賛いただいた皆様

今回の山崎能とワークショップにご協力、誠に有難うございました

（敬称略、順不同）

宍粟市山崎文化協会	宍粟市商工会
一般財団法人 にししん地域振興財団	長田産業（株）
姫路糧食（株）	エイチビィアイ（株）
（株）一宮電機	（株）ヤマヒロ
サン工業（株）	Office Mitsutani
上林建設（株）	（株）大久保製作所
（株）本條商店	（株）イガキ
（株）ファースト商事	（株）保険ワールド
（株）フジイ	山陽盃酒造（株）
安井書店（株）	（株）松本工務店
イトーオフィスサービス（株）	（株）マルタニ
ヒョウカン運輸（株）	医療法人社団 ウスキ医院
医療法人社団 山中医院	医療法人社団 いなもち医院
（株）神名工務店	小寺林業（株）
（株）谷笹化成工業所	光徳自動車販売（株）
山陽設備（株）	あがた薬局
山陽自動車工業（株）	播州電業（株）
社会保険労務士法人 菅原労務事務所	（有）コーエーカメラ
三浦精肉店	播磨総合（株）
ヤバラヤ	（株）ホンダプリモ山崎
（有）トッポジージョ	（株）セノヲ
（株）とくさや	しずのや食料品店
田内歯科医院	訪問看護ステーション プラス
老松酒造（有）	（株）オーエスエム
（株）稲田会計事務所	デザイン・いんさつ工房 萬まる堂

印刷締切後の皆様のお名前は、掲載出来ておりません。
何卒ご了承くださいますようお願いいたします。